

*** 今日の健康(10月) ***

< インフルエンザ 2025/2026 シーズン >

2025/2026 年シーズンのインフルエンザワクチンは、以下の 3 つの型に対応する「3 価ワクチン」が使用されます。2024 年から、B 型株のうち「山形系統」が世界的に検出されなくなったため、従来の 4 価ワクチンから 3 価ワクチンへの移行が進められています。

< 2025/2026 年シーズン製造株 >

A 型株 (H1N1) : A/ビクトリア/4897/2022 (IVR-238)

A 型株 (H3N2) : A/パース/722/2024 (IVR-262)

B 型株 (ビクトリア系統) : B/オーストリア/1359417/2021 (BVR-26)

これらの製造株は、世界保健機関 (WHO) の推奨株に基づき、厚生労働省が「期待される有効性」と「ワクチンの供給量」を考慮して決定しています

< 1 回の接種量、接種回数 >

6 ヶ月～2 才 は 1 回 0.25ml、3～12 歳は 1 回 0.5ml で 2 回接種 (3～4 週間隔が効果的)

13 歳以上は 1 回 0.5ml で 1 回接種 (受験生などは希望により 2 回)

2 才から 18 才は左右の鼻に噴霧式の 1 回の接種で済むワクチンもあります。

< 予防対策、日常生活でできること >

1. 体調を整えて抵抗力を高めること。
2. ウイルスに接触しないように心掛けることが大切です。インフルエンザウイルスは低温乾燥を好みます。よって高い湿度に非常に弱いので、室内を加湿器などを使って適度な湿度に保つことは有効な予防方法です。
3. うがいより手洗いの方が感染予防に効果が認められており、接触による感染を防ぐ為の手洗いは最低でも 30 秒以上必要です。うがいはのどの乾燥を防ぎます。のどが乾燥しているとウイルスが咽頭粘膜から侵入しやすい状態となりますのでマスクを使用し自分の呼吸でのどの乾燥を防ぎましょう。(一般的なマスクで十分です。)

< 予防接種の効果 >

インフルエンザウイルスの遺伝子は変化しやすいため、以前に獲得した免疫は低下しています。毎年予防接種を受ける事によってインフルエンザにかかりにくく、症状を軽減することが期待できます。

成人の場合 1 回接種の予防効果が 64%、2 回接種は 94%とされています。成人は今までに何度かインフルエンザに罹患している (少なくとも 10 年以上インフルエンザウイルスと接触がある) ので、多少の免疫を持っています。そのため、今年の流行株の予防接種を 1 回行い免疫の補強をすれば 64%は予防できるということです。しかし、流行するインフルエンザウイルスは年ごとに変わるので受験生、仕事を休めない職業、喘息など気管支疾患のある人などは、2 回接種が望ましいです。

65 歳以上で心臓、腎臓、呼吸器の機能に障害のある場合も予防接種は 2 回受けられた方がよいでしょう。これは肺炎などの合併症が起こって重症化するのを防ぐという意味で、最も予防接種を受ける必要性が高いのがこの年齢層でもあるからです。

12 歳以下の子供は、インフルエンザウイルスとの接触年数が少ないので、今までに獲得した免疫が低い可能性があり、2 回受けることが必要です。

妊産婦の場合、妊娠中期 (2 期・13 週から) 以降になれば予防接種は可能です。

授乳婦はインフルエンザワクチンを接種しても支障はありません。

インフルエンザの予防接種は毎年 10 月から開始します。抗体ができるまでに 3～4 週間かかりますので、インフルエンザが流行しはじめる 12 月初旬までに抗体をつけるために、11 月初旬までに予防接種を受けることをお勧めいたします。

受験生の場合、2 回接種をお勧めします。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り もみじ山公園バス停裏